

2019年度「生活者としての外国人」のための日本語教室空白地域解消推進事業 地域日本語教育スタートアッププログラム 報告書

団体名 銚子市国際交流協会 (都道府県:千葉県)

1. 当該地域の情報 (2020年1月現在)

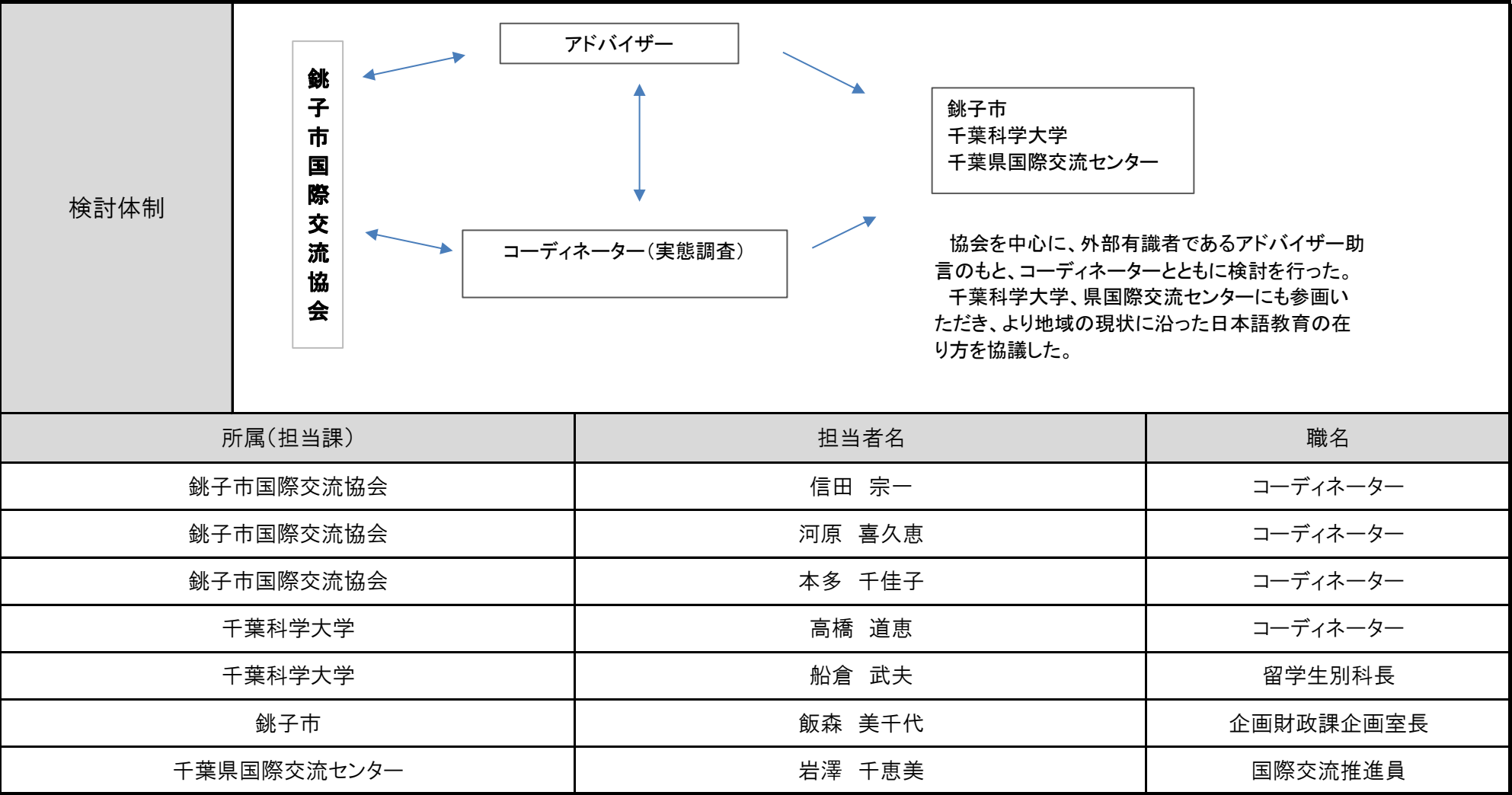
地域の課題	銚子市は、水産業・農業など一次産業が盛んな地域であり総人口60,327人に対し、外国人人口が2,244人と、その比率は3.7%で現在も増加傾向にある。総人口が減少する中、増加傾向にある外国人住民が地域で暮らしやすい環境を作ることが今後也不可欠である。そのためには、外国人住民が日本語を学習する機会があり、日本語によるコミュニケーション力を向上させるようになるとともに、地域住民も「やさしい日本語」を理解し、それを意思疎通のツールとして活用することが求められる。現在、試行的に日本語教室を開催しているのは市の中央地区に集中している。公共交通機関の利用が不便な地域に住み、運転免許を有していない外国人住民にとって継続して通うことが困難であり、銚子市全域に住む外国人をカバーできていない。
在住外国人数 外国人比率	銚子市人口 60,327人 外国人人口 2,244人 外国人比率 3.7%
在留外国人の 状況	【主な国籍と人数】 1位:中国(665人)・2位:ベトナム(478人)・3位:フィリピン(372人)・4位:タイ(351人)・5位:韓国(127人) 【在留資格】 1位:技能実習2号口(658人)・2位:永住者(420人)・3位:技能実習1号口(418人)・4位:定住者(251人) 5位:日本人の配偶者(135人) *団体監理型の技能実習生(1,076人)が48.0%(2人に1人)を占める。 【滞在年数・在留期間などの状況】 在住外国人2,244人のうち、在留期間1年3ヶ月以下が1,192人(53.1%)であり、全体的にみると流動性が高いと思われる。
在住外国人の 日本語教育の現状	銚子市国際交流協会(CIMA)の学習部会は、「ちょうし日本語教室」を2018年6月から始め、現在も週2回(日曜及び火曜)継続的に開催している。両教室とも学習者が定着しない問題点を抱えている。教室の会場が、銚子市内の中央地区に偏在していることも一因と考えられ、教室の分散化を検討している。しかし学習支援者の人数確保や、経験不足の日本語ボランティアのスキルアップなど、実現するためのハードルが高く、課題が山積している。また、永住者・定住者(671人)には外国籍の子どもが含まれ、小中高大の学校教育での学習や進学に関して、いろいろな問題を抱えていることが、日本語教室への問合せの中で判明しつつある。

2. 事業の内容

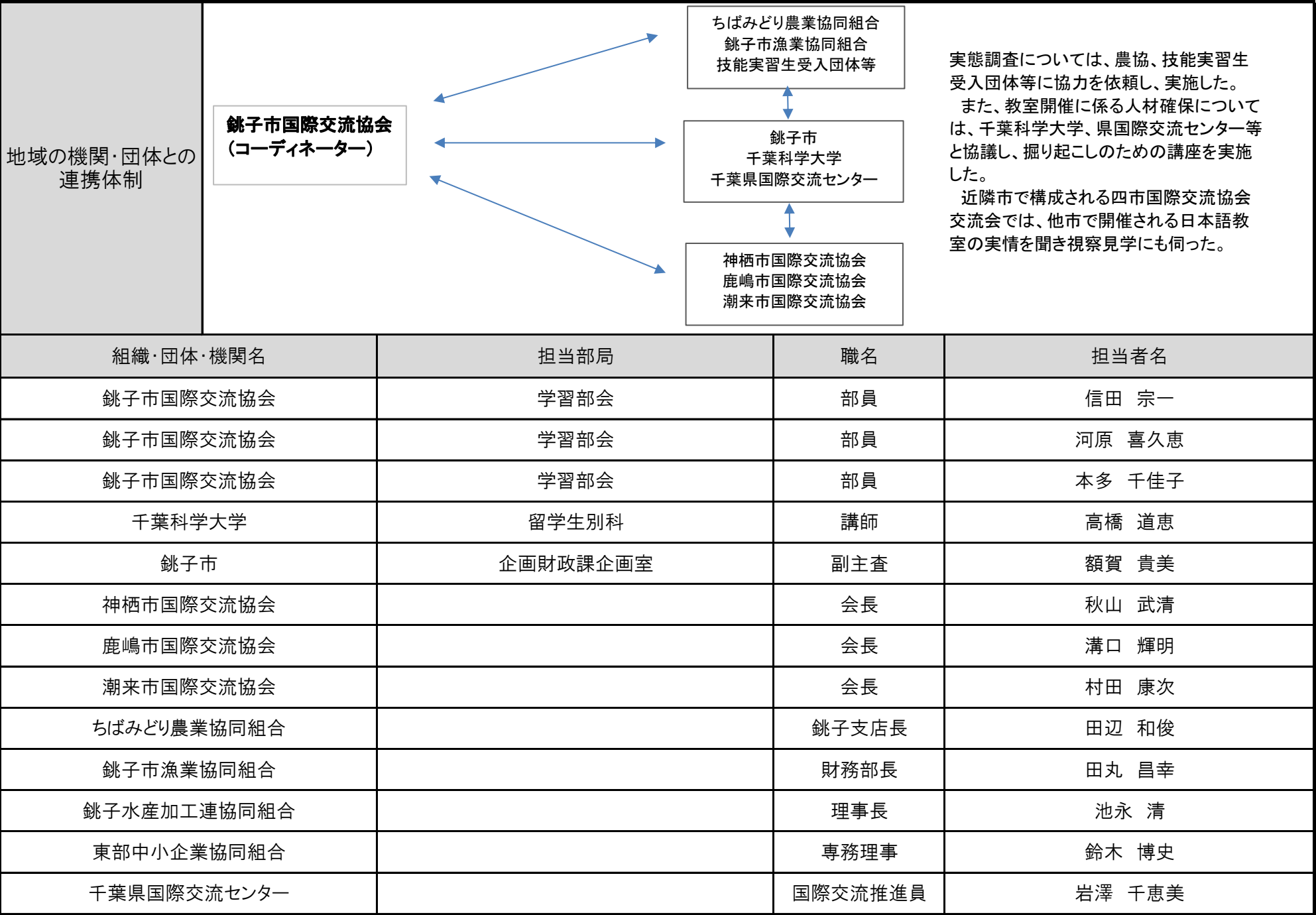
本プログラム取組年数	1年目			
事業の目的	外国人住民を地域の産業・観光・教育等の発展に寄与する貴重な人材として捉え、銚子市総合計画にうたう「市民一人ひとりが、異文化理解を深め、外国人住民と相互コミュニケーションが図られる多文化共生のまち」を目指す。その一助とするため日本語教室を設置し、外国人住民の日本語学習の機会の確保と相互コミュニケーションを図る場とする。			
事業の概要	○キックオフ会議(5/19) ○アドバイザー・コーディネーター会議4回(7/29・9/2・12/23・2/18) ○コーディネーター会議(毎月開催) ○実態調査【アンケート】(9/1～1/31) ○コミュニケーション講座2回(9/1・2/9) ○先進地視察(茨城県神栖市国際交流協会日本語教室2会場) ○熊本県八代市視察対応(10/1)			
事業の対象期間	2019年5月～2020年3月			
前年度の実績 (2年目以降の 団体のみ記載)				
担当コーディネーター	氏名	所属	職名	担当する役割
	信田 宗一	銚子市国際交流協会	学習部会	実態調査・情報分析
	河原 喜久恵	銚子市国際交流協会	学習部会	人材確保・教室準備
	本多 千佳子	銚子市国際交流協会	学習部会	実態調査(訪問・ヒアリング)
	高橋 道恵	千葉科学大学	講師	人材確保・教室準備
担当アドバイザー	氏名	所属	職名	継続・新規の別
	砂川 裕一	群馬大学	名誉教授	新規(1年目)
	神吉 宇一	武蔵野大学	准教授	新規(1年目)
	萬浪 絵理	千葉市国際交流協会	委嘱日本語教育コーディネーター	新規(1年目)

3. 日本語教室の設置に向けた検討体制

(1)地域における日本語教育の実施に向けた検討体制



(2)日本語教室の実施に向けた事業運営体制図



4. 具体的な取組内容

(1) 年間を通じた取組内容

年月	主な取組内容	コーディネーターの主な活動	アドバイザーの来訪
2019年 4月			
2019年 5月	○キックオフ会議(5/19)	●キックオフ会議出席 ・市内視察同行	★市内視察、事業計画検討 ・砂川シニアアドバイザー ・神吉アドバイザー ・萬浪アドバイザー
2019年 6月	○国際交流イベント(国際交流パーティー6/2)	●国際交流パーティー開催支援	
2019年 7月	○コーディネーター会議(7/8) ○アドバイザー・コーディネーター会議(7/29)	●コーディネーター会議出席 ●アドバイザー・コーディネーター会議出席 ・実態調査内容検討	★実態調査内容検討 ・砂川シニアアドバイザー ・神吉アドバイザー ・萬浪アドバイザー
2019年 8月	○コーディネーター会議(8/23)	●コーディネーター会議出席 ・実態調査内容確認、9/1講座に向けて	
2019年 9月	○「外国人との日本語コミュニケーション講座」(9/1) ○アドバイザー・コーディネーター会議(9/2) ○コーディネーター会議(9/3・9/25) ○実態調査(～1/31) ○CISフォーラム:ポスター発表(9/28)	●コミュニケーション講座出席 ●アドバイザー・コーディネーター会議出席 ●コーディネーター会議出席 ・実態調査の進め方について	★講座講師、開催後振り返り ・神吉アドバイザー ・萬浪アドバイザー
2019年 10月	○熊本県八代市視察対応(10/1) ○教員免許更新講習【千葉科学大学】日本語教室視察・意見交換(10/6) ○コーディネーター会議(10/10・10/18)	●熊本県八代市視察対応 ●コーディネーター会議出席 ・実態調査の進捗確認	
2019年 11月	○コーディネーター会議(11/15・11/20) ○先進地視察:神栖市国際交流協会日本語教室見学(11/24・11/26) ○四市国際交流協会 交流会(11/22)	●コーディネーター会議出席 ●神栖市国際交流協会日本語教室視察 ・学習支援者の養成について	
2019年 12月	○コーディネーター会議(12/6・12/11・12/20) ○アドバイザー・コーディネーター会議(12/23) ○中間報告書の提出(12/23) ○国際交流～日本の年越しを体験しよう～(12/8)【協力事業】 ○2019COM杯英語・日本語スピーチ大会(12/15)【協力事業】	●コーディネーター会議出席 ●アドバイザー・コーディネーター会議出席 ・実態調査等事業の中間報告	★中間報告 ・神吉アドバイザー ・萬浪アドバイザー
2020年 1月	○コーディネーター会議(1/30)	●コーディネーター会議出席 ・2/9講座について ・実態調査報告書作成	
2020年 2月	○「外国人との日本語コミュニケーション講座2」(2/9) ○コーディネーター会議(2/13) ○アドバイザー・コーディネーター会議【事業報告会】(2/18) ○鹿嶋市国際交流協会主催日本語スピーチ大会(2/16)	●コミュニケーション講座講師・出席 ●コーディネーター会議出席 ●アドバイザー・コーディネーター会議出席 ・年間事業の報告 ・実態調査報告書作成	★事業報告 ・砂川シニアアドバイザー ・神吉アドバイザー ・萬浪アドバイザー
2020年 3月	○内容報告書の提出		

(3)その他関連する取組

取組名称	実施期間	内容
コミュニケーション講座 (やさしい日本語を学ぶ基礎講座)	2019年9月1日 2020年2月9日	地域で暮らす外国人と日本語でコミュニケーションを取るための“コツ”を学ぶための講座として2回実施。 第1回目(萬浪アドバイザー)は、相手の話を聞くことから始まり、コミュニケーションとは何かという大きな枠組みで研修を実施。 第2回目(高橋・河原両コーディネーター)は、「やさしい日本語」という観点に絞り、コミュニケーションの取り方の実際を、外国人協力者にも参加いただき、グループワークを実施。

【主な活動】



(9/1開催時)
グループワーク:言葉だけでなく絵を描いてコミュニケーションを図る



(2/9開催時)
全体での学習:DVDで“やさしい日本語”について学ぶ

5. 今年度事業全体について

進捗状況	当初計画時では、ボランティアの養成講座を複数回開催する予定としていたが、アドバイザー・コーディネーター会議の議論から色々な世代の方に関わってもらうことを目的に、外国人住民と関わる際の「土台」となるような講座の開催を優先的に実施する方向へシフトした。 また、日本語教室の試行を予定していたが、実態調査に要する時間(事前準備やより多くのデータを収集すること)を優先したため、翌年度実施へ変更した。 それ以外の部分は、キックオフ会議で決定した取組が実施できた。
成果	○実態調査【アンケート】の実施(地域の日本人・外国人双方、事業者へのアンケート調査、関係団体へのヒアリングを実施) ・地域住民(435人) ・事業者(49事業所) ・技能実習生(446人) ・在留外国人(55人) ○コミュニケーション講座「やさしい日本語」の実施(2回開催:計77名参加) ○先進地視察(茨城県神栖市国際交流協会日本語教室2会場:8名参加) ○熊本県八代市視察受入(意見交換及び日本語教室視察案内) ＊ちょうし日本語教室3月休校 ＊いすみ市国際交流協会視察受入中止 ※上記2件は、新型コロナウイルス感染防止のため実施できなかった事業
地域の関係者との連携による効果	○実態調査は、地域住民の外国人に対する意識の把握に留まらず、技能実習生受入主体に対するヒアリングが初めて実現した。 ○2回実施したコミュニケーション講座では、日本語教室学習支援者以外も多数受講し、その需要は広範囲であり、新たな担い手の発掘に繋がった。 ○2019COM杯 英語・日本語スピーチ大会(主宰:NPO法人国際教育推進プロジェクトBe COM、日時:2019年12月15日、場所:銚子市商工会議所ホール)、日本語教室の学習者(インドネシア)2名、協会活動会員(千科大別科生)5名が出場、学習成果を発揮でき、この様な場の重要性を再確認した。 ○「国際交流～日本の年越しを体験しよう～」(主催・場所:旭市海上キャンプ場、日時:2019年12月8日)、学習者とその知人、支援者ら20名以上が参加し、もちつき体験・お雑煮を食べ好評であった。 ○鹿嶋市国際交流協会主催外国人による日本語スピーチコンテスト(2020年2月16日)の審査委員として宮内副理事長が出席した。
コーディネーターの主な活動	①実態調査(86H) ②会議(81H)【アドバイザー・コーディネーター会議及びコーディネーター会議】 ③コミュニケーション講座(81H) ④その他(17H) 【視察・視察対応】
アドバイザーの主な助言	○日本語教室の運営事業に始まり、異文化交流サロンや食文化交流会、ワークショップなど、様々なイベントに、小学生から大学生までの参加を求められないか、グループでの参加、兄弟姉妹での参加、親と一緒に参加などと呼び掛けられないか。近い将来、地域社会を担う人材となる若い人たちの多文化共生への自覚を促す効果がある。 ○日本語学習支援者などの人材育成をすることは、若年層の社会意識の涵養につながる。 ○関係者において「理念や目的・目標の共有」が一番重要であり、繰り返し確認することで、しっかりと「土台」づくりとなる。 ○地域の将来を見据えながら、教室で支援する主たるターゲットを明確にすることが必要 ○コミュニケーションを促進するための教材や素材の紹介
今後の課題	○協会事業(日本語教室)の多種多様な情報発信と合わせ、外国人からの問い合わせ窓口の整備 ○実態調査の結果を検証する過程で、永住者・定住者・日本人の配偶者(906人、40.4%)に対する聞き取り不足が判明したので、実態調査の継続 ○日本語教室でのメインターゲットの絞り込み ○事業の理念に沿った教室活動の内容検討 ○学習支援者の役割の明確化 ○学習支援者など「担い手(協力者)」の確保とともに、日本語教育に関するスキルアップの場づくり ○学習者が主体的に活動できる場、特に、学習成果発表の場づくり
今後の予定	○多文化共生理念の啓発(“やさしい日本語”講座の定期開催) ○居場所づくり(「国際交流パーティー」を継続的に開催するほかに、外国人が主、日本人が客となる様な“茶話会サロン”を開催) ○学習支援者の発掘・養成(学習支援者のスキルアップ講座の開催) ○学習成果発表会の実施 ○技能実習から特定技能へなど、外国人の滞在期間の長期化に伴い、学校へ通う子どもの人数が増えることが見込まれるため、教育委員会等と連携し、現状把握に努める。

本件担当 ： 銚子市役所企画財政課企画室